

《佐久市》 佐久市浅科地域ボランティアセンター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒384-2102 佐久市塩名田570番地			
電話 F A X	0267-58-0383	0267-51-5053		
電子メール	asasina@sakusi-shakyou			
HPアドレス	—			
職員数	正規	2名	嘱託	—
	臨時	1名	その他	—
開所日と時間	平日 8:30~17:15 土日祝日・年末年始を除く			
情報誌	社協広報誌「びーぷる」の中に一緒に掲載 年6回発行			
来所者数	—			

〔センターの運営方針・指針等〕

--	--

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	保健センター内の一室にあるが、安心コール、手話サークルが主に活用 無料
フリースペースの設置	—	—
資機材等の貸出	—	印刷は有料
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	高齢者疑似体験セット、ワイヤレスアンプ、CDプレーヤー、車椅子、テント、タンブリン、鈴、着ぐるみ、ストライクナイン、スロービーセット、輪投げ、スカットボールセット、釣りっこ、どじょうすくいセット、綿菓子機、オリジナル点字器 無料
登録グループの専用ポストの設置	—	—
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	—

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
委員構成	—		
事業への関わり	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	有	規約	有
名称	—		
協議会構成	平成18年3月20日設立 佐久市社協が合併して、ボランティア連絡協議会がない支所については、支部の立ち上げをしました。その後は、一つに統一するために議論を重ねたが、支部のみの活動となっています。		
協議会構成	ボランティアグループ20団体 215名（平成22年10月1日現在）		
工夫点	予算がないので、2年に一回、総会時に研修及び交流会を兼ねながら実施。各種イベントへ参加依頼をして、相互交流を図っている。		
課題点	予算がないので、活動に苦勞している。各支部組織はあるが、交流等接点がない。		

〔財源〕

人 件 費	独自財源	—
	共同募金	—
	委託料・補助金	—
	民間助成金	—
	その他	—

事 業 費	独自財源	—
	共同募金	<input type="radio"/>
	委託料・補助金	<input type="radio"/>
	民間助成金	—
	その他	—

〔業務及び事業について〕

ボランティア活動支援

相談・コーディネート	○	共・委
ボランティア保険加入事務	○	他
ボランティア・NPOへの助成	—	—
各種情報提供	○	—

広報・啓発

ボランティア広報誌・情報誌の発行	○	共
ホームページの運営	—	—

相互交流・ネットワークづくり

ボランティアの集い	○	—
ボランティア研究集会		
ふれあい祭り等の開催	○	—
・旧佐久、浅科合同で、佐久ふれあい広場開催 ・ボランティアで団体、佐久市管内の施設職員等で組織する 実行委員会 3回開催		

ボランティア講座

未経験者向け	—	—
—		
活動者向け	—	—
—		

その他の事業

元気メール事業	共
ボランティアさんが描いた絵手紙を文書を入れて、年（春、夏、秋、冬）に出す。封書の表に「元気メール」と赤字で記すと、郵便局が配達時に声をかけて、安否確認をしている。 提唱者は、一人暮らし高齢者	
安心コール事業	共
ボランティアさんによる一人暮らし高齢者への電話をととしての安否確認	
高齢者等給食サービス事業	委
一人暮らし高齢者等への年間10回ボランティアさんの手作り弁当を民生委員さんに届けていただいている。	
シルバークッキング事業	委
男性のみの料理教室へボランティアが、各班ごとに補助してもらっている。	

福祉教育・ボランティア学習

小中学生対象	○	—
・介護予防サロン高齢者と交流会 2回 ・作業所、浅科デイサービスセンターへ体験学習 ・老人クラブの皆さんとの交流会 ・福祉講演会 ・いきいきサロン参加者との吹奏楽部との交流会		
高校生対象	○	—
・知的障害者施設の見学及び講義、車椅子バスケット ・社協が運営している作業所への実習3回、春休みを活用して行なう。		
大学・短大・専門学校生対象	—	—
—		
教員・学校関係者対象	—	—
—		
一般対象	—	—
—		
福祉教育協力校への助成事業	○	—
総 額	60,000円	1校あたり 30,000円
小 学 校	1校	中 学 校 1校
高等学校	—	そ の 他 —

ふれあいいきいきサロン事業	独
介護予防及び閉じこもり予防として、小地域ごとにボラ、民生委員、区役員が開催。補助金として、社協は一人50円を補助している。	
ファミリーサポート「ほっと、ほっと」事業（有償サービス）	—
軽易な介護支援、育児支援を有償で行なっている。	
—	
—	
—	
—	

〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？		担当部署・担当職員間で事業計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？		—
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？		—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？		—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？		
連携・協働先		連携・協働内容
行政		財源、安心コール対象者情報提供
地域包括支援センター		高齢者等情報提供
—		—
○センターの強みと弱みについて		
《強み》		《弱み》 独立した建物でなく、指定管理をしながら運営をしている。またボランティア自由に使えるスペースが、1つのみ。

○VC見取り図

○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	安心コール事業	
目的	・電話をとおして高齢者の孤独感を解消、安否確認、話し相手	
開催頻度	毎週月、金	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアさんによるコール ・対象者掘り起しは民生委員 ・特記事項については、保健師、包括へつなげていく。 	
対象者	一人暮らし高齢者	
企画のポイント 事業成果	・一人暮らし高齢者の実態把握	
参加者の声や その後の動き など	・楽しみにしている	
事業の様子		
<p>事業の様子の写真等を 添付してください</p>	<p>事業の様子の写真等を 添付してください</p>	

事業名	元気メール事業	
目的	・郵便局員による声かけによる安否確認	
開催頻度	年4回（対象者35名）	
内容	・ボランティアさんが描いた絵手紙を文書に添えて封書で発送	
対象者		
企画のポイント 事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・安否確認 ・封書で発送するので、絵手紙も使用することができる。 	
参加者の声や その後の動き など	・大変楽しみにされており、利用者よりお礼の手紙や連絡がはいる。	
事業の様子		
	事業の様子の写真等を 添付してください	事業の様子の写真等を 添付してください

事業名	いきいきサロン事業	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閉じこもり予防、介護予防事業として ・ 高齢になっても元気地域でらせるように ・ 地域ネットワーク 	
開催頻度	開催地区により異なる（月1回、年2～3回、年6回等）	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア、民生委員、区役員等が地域の高齢者を集めてお楽しみ会開催 	
対象者		
企画のポイント 事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア育成 ・ 関係機関との連携により、高齢者の実態を把握し、予防につなげている。 ・ 地域の把握 	
参加者の声や その後の動き など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定着している地区は、参加者が楽しみにしている。 	
事業の様子		
	<p>事業の様子の写真等を 添付してください</p>	<p>事業の様子の写真等を 添付してください</p>